

お わ り に

平成20年1月17日に中央教育審議会答申が発表され、まもなく新しい学習指導要領が公布されようとしています。『生きる力』を育むという現行の学習指導要領の基本理念は変わりませんが、国語力・コミュニケーション力や理数教育・外国語教育の充実が盛り込まれています。中学校では、総合学習・選択教科の授業時数を削減し、国語・社会・数学・理科・保健体育・外国語の必修教科の授業時数を増加し、全体として週当たりのコマ数を1コマ増加することになりそうです。

さて、本校では、昨年度から「豊かな学びで個を育む」という研究主題を掲げ、『豊かな学び』を「個性を拓く学び」・「社会につなぐ学び」・「世界と結ぶ学び」の3つに視点をあてた研究実践に取り組み始めました。また、「豊かな学び」を3つの視点で明らかにするとともに、「習得サイクル」・「探究サイクル」に着目した授業の工夫改善を進めてまいりました。

本年度は、その2年次として、各教科において、「学びの質を高め、学び合う場を効果的に設定し、教科のねらいに迫る授業を構築する」ことを視点に、次のことをポイントとして研究に取り組んできました。

- ① 学び合いを生かす場の設定として、小グループ活動などを採り入れ、協同で「問い」を探究する授業をするなど学びの質を高める工夫をする。
- ② 45分7校時（週32コマ）を実施し、年間指導計画や単元構成を見直したり、補充学習・発展学習を組み入れたり、授業構成を工夫して効率化を図ったりする。

教科によって取り組み方や切り口が異なりますが、それぞれの特性を生かした実践を進めています。

まだまだ十分な研究内容には至っておりませんが、日々のいとなみの中から私たちなりに見えてきたことを研究紀要第46集にまとめました。一人でも多くの先生方にご一読いただき、忌憚のないご意見、ご批判、ご教示をいただければ幸いと存じます。ご指導いただきましたことを糧に、私たちは、さらに研鑽を深め、研究を進めてまいりたいと考えています。

最後になりますが、本研究の推進や教育研究協議会の開催にあたり、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山大学教育学部をはじめとする関係各位の皆様、そして懇切なご指導と温かい励ましをいただきました諸先生方に、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

平成20年3月

和歌山大学教育学部附属中学校
副校長 宮尾 英作